

中村学園大学短期大学部

学生確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

現在の日本において、短期大学への「現役進学率」「入学志願率」「過年度卒業者を含めた進学率」のすべてにおいて低下傾向である【資料①「平成 27 年度学校基本調査（確定値）の公表について」参照】。

このような社会的情勢の中、本学短期大学部全体における平成 24 年から平成 28 年まで過去 5 年間の志願倍率の平均は 1.7 倍以上あり、定員充足率も平均 1.1 倍と適正な範囲内であることから、引き続き定員充足の見込みがあると言える【資料②「中村学園大学短期大学部 志願者・合格者・入学者数の推移」参照】。

以下、データに基づき詳述する。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

現在の日本において、短期大学への「現役進学率」「入学志願率」「過年度卒業者を含めた進学率」は、平成 5 年度または平成 6 年度をピークに減少したままである【資料①「平成 27 年度学校基本調査（確定値）の公表について」 5～6 頁目参照】。

また、在学生数においても、短期大学学生は平成 5 年度に過去最高になり、翌年度から減少し続け、平成に入ってから過去最低を更新しており、短期大学生が年々減っていることが分かる【資料①「平成 27 年度学校基本調査（確定値）の公表について」2 頁目参照】。

そのような中、本学短期大学部食物栄養学科における平成 24 年から平成 28 年まで過去 5 年間の志願者数の推移をみると、志願者数は全入試方式合計で 300 名前後を獲得しており、平均で 2 倍以上の倍率を確保している。定員充足率については、過去 5 年間の平均は 1.1 倍と適正な範囲である。また、同様にキャリア開発学科における過去 5 年間の志願者数の推移をみると、志願者数は全入試方式合計で 190 名前後を獲得しており、平均で 1.3 倍以上の倍率を確保している。定員充足率については、過去 5 年間の平均が 1.1 倍と適正な範囲である。短期大学部全体をみても、過去 5 年間の志願倍率の平均は 1.7 倍以上あり、定員充足率の平均も 1.1 倍と適正な範囲である【資料②「中村学園大学短期大学部 志願者・合格者・入学者数の推移」参照】。

以上より、日本社会全体として短期大学への進学者数が減っているものの、本学短期大学部については引き続き志願者数を集め定員も充足しているため、両学科の定員減後も引き続き定員充足の見込みがあると考えられる。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学における学生確保に向けた具体的な取り組み状況としては、主として以下3点を挙げることができる。

○オープンキャンパス

本学においては、年2回ほどオープンキャンパスを開催し、年間3,000名以上の高校生が参加をしているところである。オープンキャンパスでは、本学の学びの中身について積極的に高校生へ伝える機会を設けており、学部学科の特徴やカリキュラムの詳細などについて、模擬授業の実施などを含めて学生確保に向けた取り組みを全学で実施している。

○高校訪問

本学においては、年間で述べ3000校の高校を訪問し、主として進路指導担当教員との意見交換を実施している。この意見交換においては、本学の学部学科の特徴やカリキュラムの詳細などについて伝えており、進路指導担当教員が高校生の進路希望に沿う学部学科の紹介ができるよう学生確保に向けた取り組みを実施している。

○独自相談会

本学では、前述のオープンキャンパスの他に春（5月）に独自相談会を開催して、高校生の学びに対する質問などといった進路の相談を受けている。ここでは高校生が学びたい内容や、将来の進路などを基に本学の学部学科のカリキュラム等について紹介をする機会を設けている。

その他、ホームページでの告知や進学説明会、資料請求者への入試関係資料の送付等も行っている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学短期大学部は、学則第1条において「建学の精神の趣旨に基づき、教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」ことを理念・目的として掲げている。また各学科において「食物栄養学科は、健康の保持、国民の体位向上のもととなる食物及び栄養に関する専門的な教育研究を行い、食物及び栄養に関する知識・技能を持ち、豊かな教養と人間性を備えた社会人・職業人を育成することを目的としている。」「キャリア開発学科は、自己の価値を形成し、社会で生かすためのキャリア形成に絶えず努め、職場・家庭・地域社会において貢献し得る、人間性豊かな人材を育成することを目的としている。」と定めている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学短期大学部における過去5年間の就職率の平均は98.7%である。学科別でみると、食物栄養学科の学生は98.1%、キャリア開発学科の学生は97.4%と非常に高いことが分か

る【資料③中村学園大学短期大学部 就職データ】参照】。また、【資料④「主な就職先】
が示す通り、卒業生は各学科の特色を生かした職に就きつつ、社会の様々な分野における
企業・団体等への就職を果たしており、本学短期大学部が養成する人材は、幅広い企業・
団体等から評価されていることが分かる。

以上より、今後もこの状況が安定的に保たれると考える。

以上